

月曜
ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇

תהלים

No.8 (詩篇4篇 ②) 2024. 5. 20

「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

※イエシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイエシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えてくるということです。詩篇もそのように、預言的、奥義的、重層的に読んでいきたいと思えます。

1. 詩篇4篇のテキスト

【新改訳2017】詩篇4篇6~8節

指揮者のために。弦楽器に合わせて。ダビデの賛歌。

6 多くの者は言っています。

「だれがわれわれに良い目を見させてくれるのか」と。

主よ どうか あなたの御顔の光を私たちの上に照らしてください。

7 あなたは喜びを私の心に下さいます。

それは 彼らに穀物と新しいぶどう酒が

豊かにある時にもまさっています。

8 平安のうちに私は身を横たえ すぐ眠りにつきます。

主よ ただあなただけが 安らかに 私を住まわせてくださいます。

2. 「御顔の光を照らしてください」①

● 前回は、「私の義なる神」という信仰告白に注目しました。それは「私の救いの神」と同義であることを学びました。「義」は、神と人との関係概念を表す語彙であり、神と人との信頼関係を表します。そして、その信頼関係はみこころにかなった数々の「嘆願」を生み出します。

● 詩篇4篇における「嘆願」は、

(1) 「私が呼ぶとき、答えてください」(1節)

(2) 「私をあわれみ、わたしの祈りを聞いてください」(1節)

(3) 「あなたの御顔の光を私たちの上に照らしてください」(6節)

● 今回は、(3)の嘆願に心を留めます。

2. 「御顔の光を照らしてください」②

パーネーハー オール アーレーヌー ネサー

נְסֵאֵנוּ אֹרְךָ פְּנֵיךָ
あなたの顔の (御顔の) 光を 私たちの上に 照らしたまえ

- 「ネサー」(נְסֵאֵנוּ)は、「上げる」を意味する「ナーサー」(נָסַע)の命令形です。主に対して命令することはできないので、「・・・してください」との嘆願になります。
- 詩篇80篇3節にも「御顔を照り輝かせてください」とあります。そこでは「ハーエール・パーネーハー」(הָרַעַף פְּנֵיךָ)とあり、「ハーエール」は「オール」(רָצַע)の命令形です。似たような意味ですが、80篇の場合は「救い」と同義で使われています。

2. 「御顔の光を照らしてください」 ③

●民数記の「アロンの祝福」にある「主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように」は、以下のような表現となっています。

ヴィーフネッカー エーレーハー パーナーヴ アドナイ ヤーエール

יָאֵר יְהוָה | פְּנֵי אֱלֹהֶיךָ וַיִּחַנְךָ

あなたを あなたに向けて その顔を 主が 照らすように
あわれんでくださるように

- 「照らすように」は「オール」(אור)の命令形です。
「フツネッカー」に「ハーナン」(חַנַּן)が隠されています。
「ハーナン」は「神があわれむ」ことです。それは靈的な覆いを取り除かれて「目が見えるようになる」ことを意味します。

2. 「御顔の光を照らしてください」④

- 詩119篇でも2回(130, 135節) オール(אור)が使われています。特に130節では「みことばの戸が開くと光が差し 浅はかな者に悟りを与えます」とあるように、「光が差し込むこと」と、「悟りが与えられる」ことが同義であることが分かります。
- 新約の使徒パウロに注がれた「天からの光」によって、目からうろこのような物が落ちて、彼の霊の目が開かれた経験を思い起こさせます。「天からの光、啓示の光」が、救いと開眼の恵みとなっています。これが「御顔を照らしてください」の嘆願の意味です。

2. 「御顔の光を照らしてください」⑤

- このことから、「御顔を照り輝かせてください」との嘆願は、神の光なしには生き得ないことを悟った者の叫びといえます。
- 「闇を照らす光」「すべての人を照らすまことの光」「人を照らすいのちの光」としての神の御子イエシュアによって、今やこの光は照らされています。その方がこう言われました。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」(ヨハネ8:12)。
- すでに神は、「御顔の光」「愛の光」「福音の光」「恵みの光」「いのちの光」「まことの光」「信仰の光」「希望の光」「永遠の光」「天からの光」「啓示の光」「偉大なる光、大いなる光」「やみの中に輝く光」「福音の光」「すべての人を照らすまことの光」「人の光」「主の光」「救いの光」を照らしておられます。

3. 「喜び」 (「サーマハ」) ①

7 あなたは喜びを私の心に下さいます(原文は「完了形」)。
それは 彼らに穀物と新しいぶどう酒が
豊かにある時にもまさっています。

●7節の「喜び」は「神にある喜び」です。「御国の喜び」です。Hebrew語ではそれを「サーマハ」(חַמְדָּה)で表します。イエシュアが伝道の働きを終えて帰って来た弟子たちに対して、「霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」(ルカ10:20)と言われました。「名が天に書き記されている者」は、永遠のいのちが保障されているからです。そのことを「喜びなさい」とイエシュアは語っています。

3. 「喜び」(「サーマハ」)②

●イエシュアは弟子たちに「喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから」と言われました。「喜ぶ」「喜びおどる」には、「サーマハ」(חָמַד)と「ギール」(גִּיל)の二つの動詞が使われています。この二つの動詞は詩篇などでしばしばワンセットで用いられていることが多いのですが、重要なのはこの動詞が終末的であることです。なぜなら、明確な永遠への希望なしには決して喜ぶことなどできないからです。イエシュアは「終わりの日」にもたらされる主からの報いを先取りして、「喜び」「喜びおどれ」と命令しておられるのです。御国の基調は「喜び」(「サーマハ」חָמַד)と「楽しみ」(「ギール」גִּיל)なのです。

3. 「喜び」 (「サーマハ」) ③

● 「メシアの王的支配を賛美する詩篇」には、以下のように記されています。

(1) 詩篇96篇11節

「天は喜び(המִשְׁבֵּחַ)、地は、こおどりし(לְרַנֵּן)、
海とそれに満ちているものは鳴りとどろけ。」

(2) 詩篇97篇1節、8節

1 「主は、王だ。地は、こおどりし(לְרַנֵּן)、多くの島々は喜べ(המִשְׁבֵּחַ)。」

8 「シオンは聞いて喜び(המִשְׁבֵּחַ)、ユダの娘たちもこおどりしました(לְרַנֵּן)。
主よ。あなたのさばきのために。」

(3) 詩篇149篇2節

「イスラエルは、おのれの造り主にあって喜べ(המִשְׁבֵּחַ)。
シオンの子らは、おのれの王にあって楽しめ(לְרַנֵּן)。」

4. 「平安のうちに」（「ベシャーローム」）①

8 平安のうちに 私は身を横たえ すぐ眠りにつきます。

主よ ただあなただけが 安らかに 私を住まわせてくださいます。

● 「平安のうちに私は身を横たえ すぐ眠りにつきます」と「主よ ただあなただけが 安らかに 私を住まわせてくださいます」は同義的パラリズムです。これは、単なる日常の生活だけではなく、重層的な意味を持っています。これは幼子イエシュアを腕に抱いた老シメオンのようです。

【新改訳2017】ルカの福音書2章29～32節

29 「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、

しもべを安らかに(ロウΨα)去らせてくださいます。

30 私の目があなたの御救いを見たからです。

31 あなたが万民の前に備えられた救いを。

32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」

4. 「平安のうちに」 (「ベシャーローム」) ②

【新改訳2017】ヨハネの福音書14章27節

わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。
わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。
あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

- 「平安」のギリシア語は「エイレーネー」(εἰρήνη)ですが、ヘブル語は「シャローム」(שלום)です。それは神の祝福の総称を意味することばです。人間を脅かす「不安と恐れ」の感情に打ち勝つ、「力としての平安」です。人のうちにある「不安と恐れ」がすべての考えや行動をうながしていると言っても過言ではあません。「熱心さ、頑張り」や「親切心、優しさ」の中にも、その内に不安と恐れが支配していることがあるのです。「不安と恐れ」の感情に心が支配されるなら、多くの力を失うのです。

4. 「平安のうちに」 (「ベシャーローム」) ③

● 常に何かを恐れ、心配しながら、同時にイエシュアの平安のうちに生きることは不可能です。イエシュアの平安とは、イエシュアが持つておられる平安であり、それはイエシュアにいつも寄り添っておられた御霊が与える賜物であり、聖霊の実です。それは御子イエシュアが御父にとどまっておられた結果として与えられたものです。この「とどまり」は肉によってではなく、霊によって生きるときに可能なのです。

● 「喜び」と「平安のうちに」生きることは霊的現実です。身を横たえて眠りにつくまで、今日も祈ります。「御顔の光を照らしてください」 (「ハーエール・パーネーハー」 (הָאֵלֹהִים אֵלֵינוּ)).